法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-12

# 【特集】大原社会問題研究所創立100周年・法政大学合併70周年記念シンポジウム ： 社会問題の現在 ： 特集にあたって

SUZUKI, Akira / 鈴木, 玲

(出版者 / Publisher)
法政大学大原社会問題研究所
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
大原社会問題研究所雑誌 / Journal of Ohara Institute for Social Research
(巻 / Volume)
731・732
(開始ページ / Start Page)
1
(終了ページ / End Page)
2
(発行年 / Year)
2019-10-01

【特集】大原社会問題研究所創立100周年・法政大学合併70周年記念シンポジウム

# 社会問題の現在

## 特集にあたって

鈴木　玲

今から100年前，1919年2月9日に大阪の石井記念愛染園で大原社会問題研究所の創立総会が開かれ，研究所が誕生した。創設者の大原孫三郎氏は，貧困問題などの社会問題を生み出す根源をさぐり，それを解決する方法を研究する機関が必要だと認識した。その認識が研究所設立につながった。翌20年には高野岩三郎氏が初代所長に就任し，大阪天王寺に本館と書庫からなる研究所建物が新築された。

その後1937年に東京に移転し，今から70年前の1949年7月29日に法政大学と「大原社会問題研究所合併に関する覚書」を締結した。そして，1986年の市ヶ谷キャンパスから多摩キャンパスへの移転を経て現在に至っている。何度か存続が危ぶまれる時期があったものの，研究所が今日まで存続できたのは，創設者の大原孫三郎氏を始め，高野岩三郎初代所長およびそれ以降の研究所所長，研究所所員の諸活動と努力のたまものである。

本特集は，大原社会問題研究所創立100周年・法政大学合併70周年を記念して2019年3月20日に法政大学市ヶ谷キャンパスで開かれた公開シンポジウム「社会問題の現在」の記念講演，報告，パネルディスカッションの記録である。シンポジウムには約230名の参加者を得て盛況であった。

本シンポジウムの第一部では，二村一夫法政大学名誉教授が記念講演「大原社会問題研究所の100年」を行った。本誌に掲載された記録は，当日の講演内容を拡張した内容で加筆執筆をいただ

大原社会問題研究所創立100周年・法政大学合併70周年記念シンポジウム
社会問題の現在

日時　2019年3月20日（水）14時～17時10分
会場　法政大学市ヶ谷キャンパス　外濠校舎4階　S405教室
プログラム
〈第一部　記念講演〉
大原社会問題研究所の100年　法政大学名誉教授　二村一夫
〈第二部　社会問題の現在――研究と運動をどのように切り結ぶのか〉
労働問題の視点から　法政大学キャリアデザイン学部教授　上西充子
環境問題の視点から　法政大学人間環境学部教授　西城戸誠
貧困問題の視点から　法政大学現代福祉学部教授　布川日佐史
パネルディスカッション
（司会　法政大学大原社会問題研究所教授　鈴木　玲）
（注）肩書は2019年3月現在

いたものである。記念講演は，創立時の構想，研究所の「存続が危ぶまれた」時期，法政大学との合併後の「開かれた研究所」に変容する過程，早い時期からのIT技術の活用など，研究所の100年の歴史についての様々な側面について論じている。

第二部「社会問題の現在――研究と運動をどのように切り結ぶのか」は，上西充子法政大学キャリアデザイン学部教授，西城戸誠法政大学人間環境学部教授，布川日佐史法政大学現代福祉学部教授が，それぞれの研究対象である社会問題（労働問題，環境問題，貧困問題）について報告し，その後短い時間ではあったがパネルディスカッションを行った。第二部の趣旨は，「社会問題を対象とする研究所」としての大原社研や社会問題に取り組む研究者が，人々が労働し，生活し，社会に参加するうえで直面する諸問題にどのように向かい合い，諸問題に取り組む運動にどのように関与・貢献できるのかについて検討・討論する機会をつくることであった。

「労働問題の視点から」で上西教授は，働き方改革関連法の問題点と国会審議の政府側の不誠実な答弁を多くの人に知ってもらうための運動「国会パブリックビューイング」での活動を中心に報告した。「環境問題の視点から」で西城戸教授は，環境社会学者が環境運動を研究し，関与していく際の課題に触れ，自ら研究対象とし，関与している再生可能エネルギーにかかわる環境運動（コミュニティ・パワー運動）について報告した。「貧困問題の視点から」で布川教授は，最近まで滞在していたドイツでの最低生活保障制度の改革について述べ，そこから見えてくる日本の生活保護や生活困窮者支援の問題点について報告した。また，パネルディスカッションでは，各報告者から社会問題研究において大原社研にどのような役割を期待するのか，それぞれがかかわっている社会問題について既存の労働運動がどのような役割を果たせるのかについて話していただいた。

研究所100周年の節目の本シンポジウムは，多くの関係者のご協力とご支援により開催することができた。この場を借りてお礼を申し上げたい。

（すずき・あきら　法政大学大原社会問題研究所教授）